坂上田村麻呂

中村勘九郎

阿弖流為

市川染五郎

古き時代、日の国――。大和朝廷は帝による国家統一のため、帝人（みかどびと）軍を北の地に送り、そこに住むまつろわぬ民、蝦夷（えみし）に戦を仕掛けていた。

その頃、都では、蝦夷の〝立烏帽子（たてえぼし）党〟と名乗る盗賊一味が大々を襲っていた。それを止める一人の踊り女。

彼女こそ**立烏帽子（中村七之助）**。女だてらの立烏帽子党の頭目だった。

町を襲う盗賊が自分たちの名を騙る偽物であることを暴くため変装していたのだ。

そこに都の若き役人、**坂上田村麻呂（中村勘九郎）**もかけつける。さらに〝**北の狼**〟と**名乗る男（市川染五郎）**も現れ、偽立烏帽子党を捕える。

この事件をきっかけに北の狼と田村麻呂は、互いに相手に一目置くようになる。

だが、北の狼と立烏帽子は、蝦夷が信じる荒覇吐（あらはばき）神の怒りを買い、故郷を追放された男女だった。

立烏帽子

中村七之助

北の狼の本当の名前は、**阿弓流為**（アテルイ）。故郷を守り帝人軍と戦うため、立烏帽子と二人、蝦夷の里に戻ることにする。

荒覇吐神の怒りをおさめた阿弓流為は、蝦夷の兵を率い、帝人軍と戦う。

彼の帰還を快く思わぬ蝦夷の男、**蛮甲（片岡亀蔵）**の裏切りにあいながらも、胆沢の砦を取り戻した彼は、いつしか蝦夷の新しい長として一族を率いていく。

一方、田村麻呂も、帝の巫女である姉、**御霊御前**（みたまごぜん）**（市村萬次郎）**や**右大臣藤原稀継**（ふじわらのまれつぐ）**（坂東彌十郎）**らの推挙により、征夷大将軍として、蝦夷との戦いに赴くことになってしまう。

阿弓流為と田村麻呂、互いに認め合う二人の英傑が、抗えぬ運命によって、雌雄を決する時が来ようとしていた。